

【授業報告】

京都大学 COC 科目「京都の地域リソース実践学」の取り組み

芝 涼香

“Local Resource Practice of Kyoto” Center of Community in Kyoto University

SHIBA, Suzuka

1 関連教育システム論基礎演習 IIA 授業報告

京都大学教育学部「関連教育システム論基礎演習 IIA」の授業は、生涯教育学の基礎演習であると同時に、全学 COC 科目に位置づけられる「京都の地域リソース実践学」として開講された。本授業では、京都の一地域を足場に、学生たちが自らの足や五感を用いて地域の現状に触れ、自然・歴史・産業・社会・文化など多岐にわたる地域リソース（モノ・人・情報など）を掘り起こし、その活用・共有・継承・発展などの可能性について共同で考え、実践方策をとりまとめ、具体的提言を行うことを目的とした。具体的には、二回の宿泊研修を通して、京都府の生涯学習拠点施設として今後の活用が期待される京都府立ゼミナールハウスを足場にフィールドワークや実地訪問、地元住民の方々へのインタビュー調査等を行った。具体的な授業日程は以下の通りである。

授業日	授業内容	場所
4月9日（水）	授業ガイダンス（渡邊洋子・西平直） 京北イントロダクション	京都大学
4月23日（水）	現地ガイダンス（吉田均あうる京北理事長・西村美紀京都府職員） 京北イントロダクション	京都大学
5月7日（水）	合宿1オリエンテーションと打ち合わせ	京都大学
5月9日（金）～ 5月10日（土）	第一回宿泊研修（1泊2日） 1日目 京北地域見学。地域の人々のお話を聞き、グループで方針を相談 2日目 フィールドワーク、グループで話し合い	京北地域 あうる京北
5月14日（水）	合宿1の振り返りと共有	京都大学
5月21日（水）～ 6月10日（火）	グループ活動（グループごとに課題研究）	京都大学
6月11日（水）	グループ発表の準備	京都大学

6月25日（水）	中間発表 合宿2オリエンテーション	京都大学
7月5日（土）～ 7月6日（日）	第二回宿泊研修（1泊2日） 1日目 フィールドワーク、グループ話し合い 発表準備 2日目 地域の人々の前で提言発表会・意見交換	京北地域 あうる京北

第一回宿泊研修以後、「移住チーム」「情報発信チーム」「人育てサイクルチーム」の3つのチームに分かれ、最終的に地域の人々に向けて提言発表会を行った。

「移住チーム」は京都市に住む20代、30代の若者が京北に移住を考えるきっかけについて発表した。「情報発信チーム」では、京北の魅力をいかに伝えるかに焦点を当て、若い女性の視点から様々な形の情報発信の必要性を訴えた。「人育てサイクルチーム」では、京北を人材育成・人材発信の拠点にすべく、幼児から成人まで、あらゆる年代を育てる企画を発表した。

最後に、お世話になった吉田均理事長と京北の皆様にご心より、御礼申し上げます。

2 関連教育システム論基礎演習 IIB 授業報告

京都大学教育学部「関連教育システム論基礎演習 IIB」の授業では前期の実践的演習を踏まえ、生涯教育学研究における基礎的な知識や考え方、研究アプローチなどについて広く掘り下げた理解をはかるとともに、各自の問題関心や研究テーマを絞り込み、具体的アプローチに着手できるようになることを目指した。具体的な授業日程は以下の通りである。

授業日程

授業日	授業内容	備考
10月8日（水）	授業ガイダンス（渡邊洋子）、前期授業の紹介	『状況に埋め込まれた学習』（レイヴ&ヴェンガー）『生きることとしての学び』（牧野篤）『ローカリティの社会学』（黒田由彦）を紹介
10月15日（水）	生涯学習についてのイントロダクション（渡邊洋子）、京北の研修内容についての説明	あしなが育英会との交流会を紹介
10月22日（水）～10月29日（水）	グループに分かれてグループワーク	今後の進め方について話し合う
11月5日（水）	グループ間での共有、意見交換	
11月12日（水）～11月19日	グループワーク	中間発表に向けた準備

(水)		
11 月 26 日 (水)	中間発表会	吉田均理事長、京都府文化環境部文化政策課 生涯学習担当 広井真弓様にお越しいただきました。
12 月 3 日 (水) ～17 日 (水)	グループワーク	最終発表に向けた準備
1 月 7 日 (水)	最終発表会	吉田均理事長、京都府文化環境部文化政策課 生涯学習担当 広井真弓様、 <u>越智様</u> にお越しいただきました。
1 月 14 日 (水)	振り返り、座談会	来年度に向けて反省と課題を話し合う

本授業では、履修生 15 名が「理論(セオリー)’ s」、「9trees」、「続・情報発信」の 3 グループに分かれて作業した。文献を参考にしながら、グループワークを行った。各グループの取り組みと 1 月 7 日 (水) の最終発表内容は以下の通りである。

グループ名	取り組みの経緯と発表内容
理論(セオリー)’ s	まず始めに「生涯学習とはなにか」を考えるため社会教育、成人教育、生涯学習の 3 本の柱を軸に調査した。次に具体的事例を調べ、最終発表では各自のローカルアイデンティティについての考察を行った。
9trees	大学生が林業に触れる講座を作成。以下 2 点を満たす講座を新たに提案することを目指した。 ①京北地域の人・高齢者のニーズだけでなく、より広いニーズに応える、②生涯学習施設としてのあうる京北の使命を果たせるよう、講座受講者に明確な学びを提供する
続・情報発信	京大生のなかで京北の知名度が低いことに着目し、学生に京北の存在を知ってもらうことに重点を置いたフリーペーパーを作成した。その冊子を見た学生が来年度本授業を受講するきっかけになれば、という狙いを設定した。

中間発表と最終発表には京都府ゼミナールハウス「あうる京北」の吉田均理事長、京都府文化環境部文化政策課生涯学習担当 広井真弓様、越智敏洋様にお越しいただき、発表のコメントをいただいた。この場をお借りして御礼申し上げます。